

徳島県中学校基礎学力テスト(2年数学)5力年 徹底分析レポート

【対象期間：令和2年度～令和6年度】

徳島県の2年生数学・基礎学力テストは、単なる計算スキルの確認に留まらず、学習指導要領が掲げる「思考力・判断力・表現力」を、徳島県独自のスタイル(社会課題の題材化など)で測定する試験です。5年間の推移を分析すると、高得点者(80点以上)を選別するポイントが非常に明確になっています。

1. 5年間の全体傾向と配点構造

徳島県の数学は、以下の大問構成でほぼ固定されています。

大問	内容	配点目安	難易度の傾向
大問1	小問集合(12問)	48点	基礎～標準。1年生の復習が2～3割混ざる。
大問2	文字式の説明 / 規則性	10点	記述力重視。型を知っているかが鍵。
大問3	方程式の応用	12点	社会的事象(SDGs・環境等)との融合。
大問4	図形の性質・合同の証明	15点	論理的記述。平行四辺形・二等辺三角形が主。
大問5	1次関数の応用	15点	最難関。動点・面積・グラフの読み取り。

【特記事項：令和2年度の変則性】

令和2年度はコロナ禍の影響で試験時間が45分と短く、大問2が「統計(データの活用)」の記述説明に充てられるなど、一部変則的でしたが、翌年以降は現在の「大問2=文字式・規則性」の形式が定着しました。

2. 分野別・深掘り分析

① 大問1: 小問集合(「取りこぼし」厳禁のセクション)

5年間一貫して、ここで約50点の配点が確保されています。

- 1年生範囲の「罠」: 毎年必ず「球の表面積・体積」「おうぎ形の中心角」「作図」といった1年生の知識が問われます。現役2年生が最も失点しやすいポイントです。
- 統計(データの活用): 中央値(メジアン)、最頻値(モード)、範囲(レンジ)の用語理解と算出は、全年度で必須となっています。

② 大問2: 文字式の利用・規則性(「説明の型」の勝負)

- 整数の性質(R3, R4, R5): 「カレンダー」「連続する3整数の和」など。 n を整数と置く導入から結論までの「記述テンプレート」が採点対象です。
- 規則性(R6): マッチ棒の並べ方など。図形の増え方を n の一次式で表す力が試されます。

③ 大問3: 方程式の応用(「数学的モデリング」)

徳島県は、実社会の課題を方程式にする問題を極めて好みます。

- 社会的題材: 二酸化炭素削減(R2)、SDGsアルミ缶回収(R5)、修学旅行の参加者(R4)。
- 頻出パターン: 「昨年を x, y と置いて今年の増減を表す」割合の連立方程式。令和6年度は久しぶりに「池の周回(道のり)」が出題されました。基本は割合問題の習熟が優先です。

④ 大問4: 図形の証明(論理の整合性)

- ターゲット: 平行四辺形の性質(R2, R5)、二等辺三角形(R3, R4, R6)。
- 証明の質: 根拠となる「平行線の錯角」「対角線の中点」などを明記できるか。角度計算では「折り返した図形」の性質が頻出です。

⑤ 大問5: 1次関数の応用(最上位層の選別)

- 動点問題: 点Pが辺上を動き、面積 y が変化するグラフ(R2, R3, R5)。変域による式の切り替えがポイント。
- グラフ読解: 水そうの給排水(R4)、面積の等分割(R6)。直線の式を自ら導き出し、連立方程式で交点座標を求める力が完答への絶対条件です。

3. 分析官による「徳島数学・鉄則ロードマップ」

鉄則1: 大問1を15分で満点にする

12問を完璧にするには、1年生の「空間図形」と「作図」を冬休み中に総復習する必要があります。ここでの48点確保が、志望校決定の最低ラインです。

鉄則2: 連立方程式は「昨年」を x, y とせよ

割合(%)の増減問題が出た場合、迷わず昨年や基準となる方を文字に置く。徳島県はこのパターン

が5年で3回以上の申しています。

鉄則3:1次関数の「交点＝連立」を徹底せよ

大問5の最終問題の多くは、2つの直線の交点を求めさせるものです。代入法や加減法で、分数の解が出ても自信を持って計算できる計算体力をつけること。

4. 今後の出題予想と重点ターゲット

5力年の流れから、次回のテストでは以下の単元が「狙われる」と予測します。

1. データ活用: 箱ひげ図の読み取り(新指導要領の重点項目)。
2. 文字式の利用: 「2桁の自然数とその入れ替え」に関する説明。
3. 1次関数: 料金プランの比較、または速さと道のりのグラフ。
4. 作図: 接線の作図、または回転移動の中心の特定。

分析官(予備校講師)より:

数学は「階段」のような教科です。大問1の基礎という1段目、大問2・3の立式という2段目、そして大問5の応用という3段目。徳島の基礎学力テストは、この階段を一段ずつ確実に登っているかを問っています。5年分の過去問を解くことで、出題者が用意した「階段の高さ」を肌で感じ、着実な準備を進めてください。